

## 第 14 回岡山・鳥取両県知事会議 議事録

日時：令和3年10月22日（金）13:05 ～ 14:05

場所：ひるぜんジャージーランド(岡山県真庭市)

(開会)

### ○伊藤総合政策局長

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから岡山鳥取両県知事会議を開会いたします。

私は岡山県総合政策局長の伊藤でございます。まず初めに開催県でございます岡山県の伊原木知事からご挨拶を申し上げます。

(挨拶)

### ○伊原木知事

岡山県知事の伊原木でございます。このたび、岡山鳥取両県知事会議開催いたしましたところ大変お忙しい平井知事にお越しいただきまして本当にありがとうございます。

昨年度の両県知事会議、WEBでさせていただきました。WEBでもしないよりはいいんですよね。実際にお会いできるとやっぱりいいなというふうに思ったところでございます。鳥取県さんはずっといい状態を続けられていると思う、日本で一番対コロナでうまく戦われている県でありまして、岡山の場合、第4波、第5波なかなか苦しい戦いをしたわけですが、ようやくワクチン接種のこともありまして、落ち着いてきたということで、本当に嬉しく思っております。

平井知事におかれましては、全国知事会の会長にもなられまして、この1年半はワクチン対策の司令塔として、ずっと全国知事会を引っ張っていただきました。本当にありがとうございます。これからも全国の知事、大変頼りにいたしております。私もできる限りこのご支援をさせていただきたいと考えております。そちらの方もよろしく願いをいたします。

先ほどサイクリングをさせていただきました、この蒜山のサイクリングコースなかなか安全で景色も、良くてちゃんと道幅もあります。ただでさえ気分がいいところ、今日は電動アシスト付きの自転車を試させていただきました。私も実際にちゃんと乗るのは初めてだったんですけども、楽しかったらバイクを使えばいいじゃないかっていうことなんですけれども、自転車の楽しさと、でもあのへトへトにならない楽しい感じがミックスされて、新しい楽しみ方だということに思ったところでございます。平井知事も蒜山のサイクリングコース褒めていただきまして、大変嬉しく感じたところでございます。先ほどの食事会でもジャージー牛のお肉も褒めていただきました。またジャージー牛の牛乳が非常に脂肪分が多くておいしいというのは、両県で作ったとっとりおかやま新橋館でもずいぶん褒めていただいているところでございます、こういう素敵な場所が県北にあるんだと、

鳥取の皆さんにもずいぶんPRできるいい機会だと思っているところでございます。大山隠岐国立公園とも近いこの蒜山、両県の人を訪れるにはちょうどいい、大山も見えてますし、ここに来ると大山に行きたくなりますし、大山からこちら、鳥取からこちらと、本当に近い関係にありますので、ぜひいろいろな分野でさらに交流を深めていきたいと思っております。今日はどうぞよろしく願いいたします。

### ○伊藤総合政策局長

続きまして鳥取県の平井知事からご挨拶を頂戴したいと存じます。

### ○平井知事

皆様こんにちは。本日は伊原木隆太知事にこのようにお出迎えをいただき、素晴らしい設営をして、両県知事会議開催の運びとなりました。伊原木知事に心から感謝を申し上げますとともに、この労をとってくださいました伊藤局長はじめ、岡山県の皆様に感謝申し上げますと思います。

あわせて、今日午前中から私ども、一緒になりまして、この蒜山を歩かさせていただきました。太田市長から、隈さんが作られたCLTの構造物を拝見をしまして、圧倒されました。そのあとは、また、今お話がございました蒜山のサイクリングロード。電動アシストに初めて乗りましたが、本当に快適で、しかも美しい紅葉が始まった蒜山を、安全で、また爽快に走ることができました。正直申し上げて私も鳥取県にとりましても、蒜山はなじみの深い山でございます。ちょいちょいこちらに来ますし、私もドライブがてら、車でここを走ることもあるんですが、ただ、こうやって自転車で走ると、こんなに素晴らしい景観なんだということを改めて拝見させていただいたわけでございます。また、ジャージー牛のふるさとでございます蒜山高原の方にやって参りました。先程、組合長の方からもお話をいただきましたが、こうやって伸び伸びと牛たちが草を食みながら、素晴らしい牛を供給していただき、また、ミルク、このジャージーのミルクは濃厚で大変おいしゅうございます。こういうふるさとが、ここにあること、実感できました。これはやはり、この中国地方の財産だと思います。そういう意味で大山隠岐国立公園、蒜山も一角の中に入ってまして、私たち、こうやって中国山地を活用しながら、この盛り立てをやっていけるんじゃないかな。特にコロナ後ということを見据えますと、自然の中、決して密にならないところで、伸び伸びと、皆さんが暮らしたり遊んだりすることができる、ここに大きな可能性を感じましたし、今日是非そういうお話し合いもさせていただければなというふうに思うわけでございます。

こういうところに来てつくづく思う訳でございますけれども、やはり今回コロナで皆くたびれて、こういうところが見えなかったんじゃないかなと思います。

この間、伊原木知事は本当に東奔西走されまして、日夜を分かたず、対策を取られ、その先頭に立った結果として、今日、岡山県、すっかり、感染が収まってきました。先ほどお話がございましたが、鳥取県の方も、実は第5波で3倍以上に、感染者が伸びてし

まい、現在1,662名でございます。また、亡くなった方も5名というふうが増えてはきましたが、こういう時期に来てみますと、結構岡山、鳥取頑張った方なんです。失われた経済社会活動の大きさが、逆に不思議なぐらいであります。これから両県共同して、まずは第6波、押さえ込んでいく。それと併せまして、交通の利便性なども確保し、観光振興なども進めながら一緒になりまして、コロナを乗り越えていく、そういうことができればありがたいなというふうに思っているところであります。

「豊年や牛のごときは後肢跳ね」という、これは西東三鬼さんという岡山県北の方（の俳句）でございます。まさにこういう風景を見ますと、豊かな豊穰のふるさと、それが目に浮かぶところであり、幸せを感じるところであります。先ほどおっしゃったようにジャージー牛の乳は飲んだことありましたが、お肉を食べたのは初めてでございます。これはジャージー牛でなくてジューシー牛だなと。大変にしたたり落ちるような、おいしいものがございます。蒜山なのに、昼後に会議をしております。今日は実り多い会議になればと念願をいたしております。本当にありがとうございます。

#### ○伊藤総合政策局長

ありがとうございました。

本日の会議でございますけれども、14時5分ごろまでを予定をいたしております。その後、両県知事による記者会見を予定しております。よろしく願いをいたします。

意見交換に入る前にただいまお配りをしております、両知事のお手元の方のお菓子の方をご紹介させていただければと思います。飲み物の方でございますけれども、こちらは真庭市で作られました、桃太郎紅茶でございます。渋みは控えめ、後味はすっきりとしており、ほのかな甘みが特徴の紅茶でございます。また、お菓子の方でございますけれども、蒜山ジャージー発酵バターフィナンシェ、こちらの方をご用意をいたしております。味と香りが引き立つ、蒜山ジャージー発酵バター、こちらを100%使用したフィナンシェでございます。よろしければお召し上がりいただきながら、会議の方を進めていただければというふうに思います。

（意見交換）

#### 【コロナ対策】

#### ○伊藤総合政策局長

それではこれより意見交換に入らせていただきたいと思います。これ以降の進行について伊原木知事の方で進行をお願いいたします。

#### ○伊原木知事

ありがとうございます。お召し上がりくださいという言葉を実に受けて、本当に食べよう

としていました。司会という大役がございました。

それでは、最初の項目、これは何をにおいてもまず、新型コロナウイルス対策についてでございます。私の方から発言をさせていただきたいと思っております。

本県の感染状況、9月24日にステージ2に移行し、その後の感染状況が落ち着いていることから、9月末のまん延防止等重点措置の解除に伴い、飲食店などへの営業時間短縮と酒類提供停止の要請をすべて解除いたしました。しかしながら、秋の行楽シーズンを迎え、油断すれば感染が再拡大する可能性もあることから、10月を秋のリバウンドを防止期間として、県民の皆さんには、3密回避、他の都道府県との不要不急の往来自粛、マスクの着用を呼びかけているほか、事業者には、業種別ガイドラインの遵守を改めて要請しているところでございます。

本県の取り組みとして、まず、医療提供体制の確保についてであります。第5波については、軽症者や無症状者に対する中和抗体薬の投与体制をいち早く構築し、約200人に投与し、また、自宅療養者の夜間急変に備えた一次療養待避所を早期に再稼働することができたことで、医療体制の逼迫を防ぐことができたと考えています。本県では、コロナ対応が始まった当初より、入院調整を本庁に集約しているところでありますが、これに加え、第5波では、従前保健所で担っていた自宅療養者の健康観察業務を本庁に集約し、保健所が積極的疫学調査等に専念できる体制を整えました。第6波に向けては、少なくとも第5波と同程度の感染拡大が生じることを想定し、引き続き、健康観察や治療入院など、それぞれの場面に迅速かつ適切に対応できる体制作りを進めてまいります。

クラスター対策としては、本県独自の取り組みとして、昨年9月以降、福祉施設や事業所等において、クラスターが発生した場合に、速やかに感染拡大防止対策を講じられるよう、専門家によるクラスター対策班、岡山県ではこれをOCITと呼んでおりますけれども、対策班を編成いたしました。具体的には、クラスター発生施設に医療提供チームを派遣し、トリアージを行うなど、施設内での療養を支えているほか、クラスター発生施設以外においても、感染発生初期段階における感染拡大防止対策や、感染予防研修を実施し、施設内の体制整備に役立っているところでございます。

次に、ワクチン接種についてであります。岡山県の状況としては、現時点で接種対象者の約8割が1回目の接種を終え、約7割が2回目の接種を完了しています。ここで若い世代の接種率向上が課題であり、副反応を理由に接種を躊躇されている方などへの正しい情報の提供に努めつつ、県営接種会場においては、予約なしで接種できるようにするなど、接種機会の拡大を図っております。また、10月15日から10月31日までを、ワクチン接種ラストスパート期間として、接種を済ませていない方に対し、有識者から、ワクチンの有効性や副反応、後遺症の状況などに関する最新の知見に基づく、動画配信やSNSのバナー広告など、様々な媒体を通じて、早めの接種を呼びかけているところでございます。

続いて、経済対策についてであります。外出自粛や営業時間短縮の影響によりまして、売り上げが減少した県内事業者に対し、県独自の飲食店等一時支援金を支給するとともに、

10月1日から県民を対象に、宿泊割引などを実施する岡山旅応援割の再開や、GoToイート食事券、プレミアム付交通券の販売再開を行ったところです。

ウィズコロナ、ポストコロナを見据え、経営の多角化や、新事業展開などに意欲的に取り組む事業者に対する新たな補助制度を創設し、企業の収益力向上を目指す取り組みを支援するほか、販路開拓支援、宿泊施設の感染防止対策などの取り組みを強化するなど、事業者の状況に応じた施策を講じながら、地域経済の回復に取り組んで参りたいと考えております。

最後に、両県での連携ということでありませけれども、昨年度の当会議でも合意させていただきました。クラスター対策や疫学調査、ワクチン接種等の情報共有については、担当レベルで日々行わせていただき、大変ありがたく思っております。ワクチン接種が進み、ソトロビマブなど、新たな治療薬が増えるなど、明るい兆しが見える一方で、第4波と第5波で、感染者の年齢構成や重症化死亡率が大きく変動したように、今後予想される第6波もこれまでと感染拡大の様相が異なる可能性が予測されることから、両県での情報共有はこれまで以上にしっかり行っていきたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○平井知事

はい、ありがとうございます。それでは私の方から、引き続き鳥取の状況等、お話をさせていただきたいと思っております。お手元の方に資料を用意させていただいたわけでございますが1-2というのがございます。

まず本県の今の感染状況であります。昨日も夜中まで検査したものの0でありまして、もうこの数字ということに相変わらずなります。1週間当たり10万対比の新規陽性者1.4人ということでございまして、病床の使用率は今2.1%。基本的には全員入院ということでやっていますが、お一人、ご家庭の様々な事情の中で、自宅療養、我々はそれぞれ支えるというやり方をしておりますが、基本はそうした形にいたしております。

それで少し参考までに、どういう感染状況だったのか、岡山県さんのいろんなデータもあると思うんですが、多分よく似ている話が多いと思っておりますので、本県の状況も少しお話をさせていただきたいと思っております。下の方に第5波の推移がございまして。上の方の棒グラフにでこぼこがあります。本県の場合、サッと全部調べに行くようなことにしていますので、濃厚接触者に限らず、かなり手広く学校丸ごととか調べます。

そういう意味で、いつときパッと増えるんですが、そのあとが消えてくるようになりますので、行ったり来たりするというのが鳥取県の特徴でございまして。こういう中でも、特に9月18日以降ですね、ぱったりと風に入ったような状態が実は今続いているということでもあります。ちなみに9月18日は私の結婚記念日でございます、その辺から大体、平和になったということでございます。

それで次、裏の方にまいりますと、陽性者の発生状況ということですが、よく言われるのは、右下のところワクチンの接種状況でございまして。2回接種している人っていうの

は、1割ぐらいでありまして、そのうち重症化したのは1名だけです。若干気になりますのは10月に入ってからは、4分の3がワクチン接種してない人でありまして、ワクチン接種者の割合が4分の1ぐらいと、若干ちょっと増えてるんですね。ブレークスルー感染が、どういう形で今起きているのか、もう少し分析をしなければいけないのかなというふうに考えております。

それで、下にございますのが、これがもう全ゲノム解析を本県独自にやってみまして、大方3分の1ぐらいの株については、ゲノム解析をし、全国のゲノムの状況と照らし合わせています。ちょっとわかりにくいんですが、右側に大きなブラックホールがあり、左側に小さなブラックホールがあります。こういうところからですね、実は本県の方にやってきてると思われるんですね。ご覧いただきますと右側の方が、実はもう早いんでして、最初に6月の下旬、ブラックホールの真ん中に書いてあるのは、これを関西から丸ごとコロニーのような形で、本県に来てた人たちが、デルタ株のクラスターを起こしたというものです。その後、7月上旬、7月中旬というふうにあります。ほぼ、こちら系統のものが入ってきていると。実は丸ごとですね、衛星の様に丸がありますが、お互いに、ゲノムが違います。ただその根っこをたどると、このゲノムかなというのが、そのブラックホールです。ここから発生してきたものが、何らかの形で、何回かに分けて、県内に入ってきて、それが広がると。先ほど申しましたように入った途端にこっちは潰しにかかりますので、囲い込んで、そこは消えていく。それを繰り返してこういうふうな、7月に幾つか来ているわけですね。それから、左の方に今度は8月に入ると、移ってきます。左の方も右側の方も、関東地域でよく見られる株であります。タイプが違っていて、左側武漢系、もともと中国にあった株に近いもののデルタ株です。こちらの系統が8月に相次いで入ってきて、9月まで続いている。おそらく、岡山だとか広島だとか、同じようなことが見えるかもしれません。

こうやって調べていきますと、結局何が見えてくるかという、我々トータルで見るとさっきのように、波がグーッと上がったように見えたり、下がったように見える。そこには実はそれぞれ別々の株が流れてきている。特に、本県の場合は前半と後半戦で、ゲノム解析上、違ったグループが、相次いで入ってきたと思われるわけでありまして。この丸の大きさが、感染者数が多いところではございまして、特に右側の方が、前半戦で入ってきたグループですけど、Ct値といわれるウイルスの発生量が比較的低いグループです。左側の方が後から入ってきたところ、これがCt値が比較的高め、若干高めです。具体的には、左の方は、この時期は大体平均でCt値23、24ぐらい。少ないところでは11とか、そういうとんでもないもの。左側の方は、平均ですと25、26になっていました。もちろんそれでも時より低いものもあると。それが9月に入りましてからは、大体Ct値平均30近くまで上がって来ていました。そのあと、左の結婚記念日が来た途端になくなったということになります。だから、よくわかりませんが、何らかのそうしたウイルスの傾向というのはやっぱり、こういう仕事していく上では、分析して役に立つのかなと思っているところでもあります。それから右側の方です。上の方が、こうしたデータを基にしまして、鳥取大学の景山先生に分析をしていた

できました。一番左側は赤と青の折れ線グラフがございます。赤と青は最終的には3日以降、同じぐらいのコピー数というふうになります。つまりこれ、ウイルスをどれだけ増やすかということですね。ところが1日目のところでは、これ有意に差があります。赤い方がデルタ株。デルタ株の特徴としては、立ち上がり早いということがあるのかもしれませんが、それから真ん中でありまして、これは景山先生の独特の理論かもしれませんが、鼻の奥の方の細胞にくっつくんですね。くっつきやすさっていうのを調べてみると、赤い方のデルタ株が、相当程度、従来株よりも高いと。それから右の方であります。これは細胞が感染する、つまり暴露されるといいますが、飛沫がとんできてですね、さらされるのが暴露、exposureですね。それでinfection、細胞の中に入り込むと感染します。その感染に至ったときの濃度を比較してみると、濃度が比較的低いのに、感染を引き起こしてinfectionに至ったというのが、デルタ株であると。この辺、我々と感覚が非常に合うんですね。

それから、下の方をご覧くださいますと、岡山でもブレイクスルー感染がございましたけれど、私どももございました。それを調べようということで、右側の方にデルタ株のみというのがありまして、三つグラフがあります。こういうのは、伊原木知事のご専門でしょうが、これは分布図を示していて、中間値が、折れ線状になって、左右に繋いでいるところです。これをご覧くださいますと、一番左が、注射をまだ打っていない人。真ん中が注射を1回打った人。右側が注射2回打った人。これを比較してみると、違いがないんですね。これは実は縦軸はやっぱりCt値であります。ですからウイルスの発生量が、違いがひよっとしたら、2回打っていただければですね、ウイルス発生量が低くなって人にうつしにくくなるんじゃないかというふうにちょっと仮説としては持ちたいんですけども、残念ながら注射2回打っても、実は人にうつす力はあんまり変わらないということですね。ただ問題は感染するに至る人の数が、おそらくは少ないだろうと期待されるわけです、2回打っていただければ。ですから絶対数は少ないかもしれませんが1回感染してしまうと、その人は1人にうつす確率はさほど変わらない。ですから、ブレイクスルー感染があるので、2回打っても、ちゃんと基本的な予防の所作はやらないといけませんねということになるわけです。他にもいろいろ調べてきて、今日はちょっとつけておりませんが、これはなるほどなと思った分析結果はですね。10歳未満のお子さんについてもCt値調べました。そうしますと、Ct値の平均がですね、従来株ですと32。これあんまり高い方ではありません。今まで子供さんそんなにうつさないし、うつらないとみんな思っていました、従来株は。デルタ株はこれが27でした。だから、かなり下がったんですね。だからお子さんの間で、なぜかわからないけどうつりやすくなってきたと。それはちょっとメカニズムは、私も素人なんでよくわかりませんが、やはりデルタ株はお子さんが、うつりやすくなっているという前提で考えないといけないのではないかと、こういうデータでありました。それまでは32であればさほどうつらないだろうと。我々の感覚と合うのですが、27となると、やはりうつるというふうに思った方がいいのかなということでした。

それから次の7ページ以降はですね、今後のことでありまして、簡単に申し上げますが、

もう伊原木知事がやっておられることと同じような事いろいろやっていますし、今後も進めていくということであります。病床を確保していこうとか、それから、宿泊や在宅療養、在宅でのメディカルケアを強化していこうとか、そういう意味で下の方にございますが、投薬もですね、医療法のいろんな制約あるんですけども、医師が、薬局の方に処方箋を出して、その薬局が届けるというやり方をして、従来はホテル療養とか在宅療養は市販薬に頼っていたのですが、これをちゃんときっちり処方した薬が出せるようにしようということを今、第6波に向けて準備をしたところでございます。

ちなみに昨日は後藤厚生労働大臣と、知事会として協議をさせていただきました。先般中国地方知事会でも皆さんからご意見が出ていましたが、2割一律で、病床を増やせというのは、あれは大都市の問題じゃないかとかいうご意見がございましたけれども、それを率直にぶつけさせていただきましたところ、後藤大臣は、一律にとすることは言わないですと。10月1日に、厚労省として、療養とか病床の体制確保についての文書を出している。それに従って、それぞれの地域で考えてもらったもので調整していきたいというお話がございましたので、必ずしも一律に2割増やせということではございませんというふうに言っていました。我々もですねぜひ協力をしてやっていければと思います。

先ほど、伊原木知事がおっしゃったこと、両県として情報共有すること、共同でこうした感染抑制に当たっていくこと大賛成でありますし、それから、おそらく第6波、心配されるとしたら、今ロシアで新しい株が見つかってですね、これがデルタ株以上に感染力があるんじゃないかと、いうふうに言われるものが見つかっています。現実には今ロシアの感染状況はかなり悪化してきております。そういう意味で次の足音が聞こえてるかもしれません。また医療体制が十分でないということになりましたら、これについてお互いにですね、協力ということもあるんじゃないかと。例えばコロナ患者そのものを移動していただくのは結構リスクがあったり、ご家族の問題がありますが、例えば後方支援病院的なことで協力をしていくとか、それから、私ども兵庫県ともやっておりましたが、他の重症患者、コロナ以外の重症患者を隣の県で受け入れるということであれば、それは比較的やれることであります。そこで余力を作って、公立公的病院中心かもしれませんが、コロナの患者受け入れのキャパシティを増やしていくということはあるかもしれません。

いろんな意味で、伊原木知事のご指導いただきながら、相互協力の体制を第6波に向けて作っていければと思います。

## ○伊原木知事

時間厳守ってということで何か全部通り一遍の説明になりましたけれど、私がお伝えしたことよりも、深い内容を教えていただきまして、エビを持って行ってタイを教えてもらった、みたいな感じになりました。Ct値の話、大変興味深く聞かせていただきました。ありがと

うございました。倍々ゲームの値ですので5つ違うと32倍違うっていうことで、うつりやすさはデルタ株でかなり違うなっていることを我々も実感したところです。また、ワクチンの効果の高さを実感したところでありまして、ぜひワクチン接種率を高く上げて、第6波に備えたいと思っており、また、病床使用率も、我々、第5波の時は48%で何とか抑えたわけでありまして、この限られたリソース、本当に必要なところに、どう振り向けていくか、考えていきたいと思っておりますけど、国にちゃんと打ち返していただきましてどうもありがとうございました。

## 【ワーケーション】

### ○伊原木知事

コロナで注目されているものの一つに、リモートワーク、ワーケーションがあるわけですが、次の項目、両県境におけるワーケーションの取り組みについて、平井知事の方からお願いいたします。

### ○平井知事

ありがとうございます。すいません。時間のことはあまり知らなかったものですから、うっかりしてました。

簡単にポイント申し上げますと、伊原木知事にいろいろとご協力、リーダーシップ頂いて、ワーケーションについても両県共同事業が始まろうとしています。感謝申し上げておりますのは11月24日から、両県共同でこの大山隠岐国立公園の蒜山エリアも含めた、国立公園で、ワーケーションを受け入れていこうと。いよいよこの蒜山高原や津黒、或いは湯原で受入れる、我々の方でも、大山のふもとのTORICOという施設であるとかですね、皆生温泉の東光園さんであるとか、そういったところなどを今、用意をして進めようとしております。本県自体も、岡山県と同じようにワーケーションの自治体の協議会に入らせていただいて、12月に今予定しているプログラムもございますし、最近は今村さんという、毎日新聞の関係の方なんですけど、ファミリーワーケーションに造詣の深い方で、この方にアドバイザーになっていただきまして、今新しいファミリーワーケーションというものを、進めようとしています。今日も壮快なところを自転車で走り抜けましたが、別荘地もございまして、そうした姿、こういうところにこそ、多分、都会の人の憧れの場所があるんじゃないかなというふうに思います。

是非ですね、両県も共同して、ワーケーションを、日本の国内で盛り上げていけるように、いきたいと思っておりますので、ご協力お願い申し上げたいと思っております。

### ○伊原木知事

はい。どうもありがとうございます。

先ほど、平井知事に仰っていただきましたワーケーション自治体協議会、岡山県も参加をさせていただいています。また岡山県内でも、岡山県ワーケーション検討会というものを、

県内の市町村、それから民間事業者にも参加していただいて、立ち上げたところでございます。まだ勉強を始めたばかりですけれども、いろいろな取り組みが、同時並行で起きているところでございまして、この蒜山地域でも、CLTを起点とする連携ビジネスが期待できるということで、真庭市さんも非常に協力的だと伺っているところでございます。言及いただきました来月、真庭市の協力も得て開催予定の、大山隠岐国立公園を中心としたワーケーションツアー、鳥取岡山両県の魅力を発信するとともに、この地域のワーケーションの取り組みをきっかけにしたいと考えております。コロナで、ひどい目に遭っているところがいっぱいあるんですけれども、ちょっとでも、コロナをきっかけに、前に進んだっていうものを見つけていきたい、ワーケーションはその一つだと思っておりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

### 【観光連携】

#### ○伊原木知事

では次、大きな打撃を受けた観光をどう回復していくかっていうのが、課題であります。次は観光連携について、これは私の方からお話をさせていただきます。

両県の観光連携でありますけれども、鳥取岡山広域観光協議会で、鳥取岡山新橋館を活用した誘客促進など、実施しているところでございます。

中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化に向けた整備が進む中で、いかに高速道路をうまく使って、誘客に取り組むかということが大事であります。また、サイクリングを使ってPRしていくということも考えているところでございます。

密を避けて自然を満喫するサイクリング。非常に人気が高まっておりまして、この大山蒜山周辺を含めて、中国地方は全部そうですけれども、両県でサイクリングルート、随分整備が進んでおりますので、是非、連携して情報発信をしていきたいと思っているところでございます。

またデスティネーションキャンペーンなんですけれども、来年の7月から9月に岡山デスティネーションキャンペーンを開催いたしますので、今年の7月から9月にプレキャンペーンを開催したところでございます。コロナのおかげでかなり制約があったわけですが、来年は瀬戸内国際芸術祭と同時ということもありまして、是非、その時までには、コロナを押さえて、盛り上げていきたいと思っております。DC、前回もそうだったんですけれども、一過性のものにしないっていうことは非常に大事でありまして、ぜひ工夫をしていきたいと思っております。

コロナで酷い目にあったものをどううまく戻していくか、コロナのことで、皆さんの行動パターンも意識がちょっと変わる可能性がある。それにうまくマッチした新しい観光っていうことも考えていきたい。そういう時に、ぜひお隣ですので、周遊できるようにしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

## ○平井知事

ありがとうございます。全く全面的に賛成いたしたいと思います。実は岡山鳥取両県で、観光の協議会を作り、ドライブマップを数年前に作りました。あれが優れものでありまして、結構人気があってですね、増刷も続けて改訂も続けていますが、ぜひああいうもので、ちょうどこのエリアは一体となったエリアでございますので、その周遊観光を広げていければと思います。

また、デスティネーションキャンペーンのご成功をぜひお祈り申し上げたいと思います。私ども、実は前回のですねキャンペーンが山陰両県で、平成 30 年の 7 月でございまして、7 月豪雨の風評被害だとか、或いは交通途絶の中でございまして、とんでもない時期だったんですが、是非、コロナが収まって、いい起爆剤になればと、応援をさせていただきたいと思います。そういうような観光の盛り上がりもある中で、サイクリングは、今日本当に素晴らしい素材だなと思いました。

実は今日走らせていただいた蒜山の自転車道であります。ここから繋がる場所に、蒜山大山スカイラインという、県道でお互い整備してると思います。残念ながら冬場は雪の関係で閉鎖してしまうんですけど、ただそんなに車が通る道でもございませんで。ここを抜けていきますと、大山側の方に抜けていきます。そこでこうグルグル回るようなツール・ド・大山コースというのがあったり、そこからさらに実は Sea to Summit コースというのがあります。あっちも Sea to Summit やってるもんですから。そこから今度は白砂青松の松原の海辺のコースに繋がっていくということにもなりまして、その辺は是非ですね、両県共同でまた売り込んでいければと思います。実は県の県北の東部の方でも、鏡野町のところまで、鳥取県側の自転車道のルート設定ができ上がりましたので、ここも繋がって砂丘の方まで出られるようになっております。是非、またですね、自転車愛好家の伊原木知事のいろいろご指導いただきながら進めていければというふうに思います。

またあわせて、一つこれは今日すぐに結論ということにはならないかもしれませんが、今、岸田政権になり、今後選挙が戦われることとなりますが、今大きなテーマとしては観光の復権ということを挙げておられます。Go To キャンペーンにつきましては、2.0 というのをやるということですが、これなかなか時期は慎重に選びたいというお話であり、地域観光支援事業という、マイクロツーリズムについては、前向きにやれることをやっといこうと。伊原木知事のところで、岡山県内の観光についてですねこの度、スタートされました。

もし可能であればですね、このエリアを隣県に広げていくということを知事会もかねて主張していたんですが、国土交通省も今重い腰を上げようとしてるようによ見えます。仮に隣県の、例えば宿泊とか、そういうのも同様のスキームで国の支援事業が始まるということになるのであれば、速やかに岡山県と鳥取県と相互乗り入れのようなそうした宿泊キャンペーン等を展開すれば、いろいろとお客さんの行き来はあるのではないかなと思います。

実は今日も伊原木知事も驚かれてましたし、私思っておりましたが、蒜山ワイナリーところを自転車で走りぬけたら、一生懸命手を振っている人がいる。これは伊原木知事のファンだなーと思って。

#### ○伊原木知事

私の3メートルぐらい前に視線が飛んでましたから、平井知事を認識されて、すごい盛大に手を振られて。

#### ○平井知事

何かもう、宝物見つけたみたいな顔して手を振っていて、これ伊原木知事の人気だなと思ってたら、そのあと「鳥取県民で一す。」という声がありまして、だから、結構鳥取県の人喜んで、この蒜山ちょうど紅葉が始まる時ですし、おいしいものもいっぱいあるので来てるんです。ですので、相互乗り入れすれば、相互にチャンスがあると思いますので、是非ご検討いただきたいと思います。

#### ○伊原木知事

どうもありがとうございます。とにかく感染が厳しいときには、近場近場でっていうことになりますけれども、ワクチン接種が進んできて、ちょっと感染を抑えやすくなってくると、いきなり全国かどうかは別として、隣県からっていうのは非常に私、自然な発想だと思っております。特に、岡山県から見ると、本当にこの1年半、鳥取県うまく感染をコントロールされてますので、是非ご一緒したいと思っています。事務方の方で具体的に詰めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

#### 【高速道路】

#### ○伊原木知事

次は、観光のためにも、防災のためにも、この地域が繋がっていなければいけないということで、高速道路ネットワーク等の整備促進についてでございます。平井知事の方からお願いいたします。

#### ○平井知事

高速道路ネットワークにつきましては、岡山県さん、非常にネットワークの整備が進んでいって、伊原木政権になってから、美作とそれから岡山を結ぶ道路、順次開通して、本当に見違えるようになって。こういうことで我々、やっぱり中国山地を跨いで、お互い行き来をするネットワークの大切さっていうのを感じてましたので、伊原木知事の大きさに、非常に感謝しているところであります。そういう中ですね、やっぱり繋がってきてる道路も安全にしなきゃいけない。特にこの蒜山エリアなどは、雪深いところでございます。

また東の方に行っていただきますと、西粟倉村とかですね、そうした雪深いところがありまして、山陰側も同様でございます。ここで、事故も多発する、命に関わるところもありまして、雪かきをしようと思ってもやはり、道路が対向2車線ですと、雪を捨てる場所がないということになります。

そういう意味で、是非4車線化、ないしは付加車線化を整備を進めていただけると大変にありがたいと考えておりまして、ご協力を仰ぎたいということでもあります。

実は岡山側の方の岡山自動車道については大分整備が進んできて、さらに今、米子道の方の蒜山側につきましても、進捗が図られております。いよいよ三平山のトンネルのところについてであるとか、それから他の区間、江府インター前後であるとかですね。着々と今、計画の方が進んできて、溝口江府間についてもこの度、新規の事業化のめどが立ちました。あと残り5キロぐらいがもう鳥取県側ですね、未着手というところになってこようかと思えます。これはやはり、NEXCO西日本であるとか、それから国交省に働きかけて進捗を図らなければならないところございまして、太田市長はじめですね、真庭の議長さんもそうですが、期成同盟などでお世話になっております。ぜひ伊原木知事のお力をいただきまして、早期にこうした高速道路ネットワークが繋がっていくように、これは姫路鳥取自動車道も含めてお願いをしたいと思います。

またここ、真庭の皆さんと、鳥取県中部とはですね、医療圏が実は重なっています。鳥取側の倉吉の方の、病院がバスを仕立てて、こちらから患者さんを運ぶというようなこともやるぐらい、医療圏的には重なってしまっています。やはり、命を繋いでいくという意味でも、道路をつなぐ意味があるだろうと思えます。

北条湯原道路という大きな構想がございまして、この地域高規格道路をですね、伊原木知事も是非、岡山の接続を果たしていただければありがたいと思えますし、鳥取側も、今県境に向けて順次建設を進めてきておりますので、よろしくご検討お願いしたいと思います。

## ○伊原木知事

どうもありがとうございました。

平井知事おっしゃられましたように、高速道路、国によっては、4車線でなければ片側2車線でなければ、高速道路の定義を満たさないという国もあるぐらいで、日本の場合は、切れてるよりは、片側1車線でも繋がってる方がまだいいだろうっていうことで、つなぐことを優先して、それはそれで一つの考え方でありまして、例えば岡山道は一応片側1車線をつないだ。で、いずれ4車線化するからということで、20年待つことに。20年、赤ちゃんが成人しちゃうぐらいですから、ちょっと長い。ただようやくこの数年間、いろんなスキームを工夫していただきまして、トントんと進んで、岡山道については、最後の4.5キロが事業化されることになって、全線4車線化のめどが立ったということでございます。普通に流れてる時には片側1車線あれば回るんですけども、おっしゃられるように、雪が降った時の雪のかわし場所、何か事故があった時のかわし場所、災害があった時も、3年前

の豪雨災害の時も、やはり片側1車線のところで、我々随分寸断もされて、2日間、新見は陸の孤島になってしまったですとか、やはりいろんなことを考えて、4車線化、大事だなと考えているところがございます。

これらは鳥取県さんの方についても同じ事情でありまして、これまでもそうでしたけれども、協力して、国の方に訴えていきたい。太平洋から日本海まできちんと縦の線が通るっていう、これ、産業のこともそうですし、防災、何かあった時の対策をとる上でも非常に大事だと思っております。姫路鳥取線の整備のこと、北条真庭道路の整備のことについても、いろいろ伺っているところがございます。それぞれの方から取り組んでいきたいと思っております。これからもどうぞよろしく申し上げます。

#### (話題事項)

##### ○伊原木知事

最後に、話題事項として、広域物資輸送拠点を活用した取り組みということで、平井知事の方から、お願いします。

##### ○平井知事

この点につきましては岡山県の防災危機管理担当の皆さん。大変にお世話になりました。それは1月18日、コロナ禍でございましたので、インターネットでの調印式となりましたが、伊原木知事、それから鴻池運輸の皆さま、お迎えをして、ネット上でのリモート調印式に臨んだのが、防災のための物資の集配拠点、集積、並びに貯蔵をして、それをさらに被災地の方へ届けていく。そういう拠点でございます。

岡山県にとりましてはそこからまた全県に展開をしていくと、空港のこともございますし、いろんなネットワークを張っておられる、私共のところではいきますと、いわばゼロ次拠点でありまして、県内が全滅しても、岡山県側の方にそうした拠点があることで、こちらの方にですね、物資が滞りなく入りうると、それを米子道と中国道が交わる、この真庭に設定をするということになりました。

全国でも、こういう県境跨いで協力し合うというのは、あまり例のあることではございませんで、非常に画期的なことだと思います。できればですね、これを実効あるものになりたいと思いますので、鴻池運輸さんのご協力もいただきながらですね、今年度中に、まずはこの物資の輸送訓練を実施できるように、ご協力をいただき、軌道に乗せていくことが、大切ななと思っております。

また伊原木知事はかねてから、中国知事会でも主張されておられますが、中国地方全体でも広域的にですね、そういう輸送の拠点、この真庭のことだとか、そうしたことを活用しながら、必ずしもそれぞれの県で自前で全部なければいけないというものでもないと思えますし、特に政府がプッシュ型で物資を送り込んでくるっていう大災害の実例が、真備の水害だとかいろんな時にあったわけがありますので、こういうふうな意味でですね、そうしたさ

らなる広域の検討とか、この辺も含めて、またお世話いただければありがたいなと思っております。

### ○伊原木知事

どうもありがとうございます。

岡山にあるこの物流センターがいざというときに、鳥取県の皆さんのためにも、活躍できるようにしておく、本当に、全国的にも珍しい取り組みを、鳥取県の皆さんと相談してできるようになったこれは非常に誇らしく思っております。知事言われましたように、仏作って魂入れず、形だけ作って、いざというときに思ったように、動かなかって言ったらせっかくの取組が、残念なことになりますので、きちっと訓練を、いろんな場合を想定して訓練していくというのは本当に大事なことだと思っております。是非とも我々も参加をさせていただきたいと思っております。

日々県庁回していく中で、リソースがない中で、でも、やらなければいけないことやおいた方がいいことっていうのは、本当に多い、キャパシティを超えそうになるわけなんですけれども、そういうときに、そもそも、全部自分たちで完結させる必要がそもそもない、法律上の縛りがあれば別ですけれども、そういうことで、例えば、3年前の水害の時には、中国地方の取り決めで言えば、順繰りからすれば、我々が鳥取県さんをお助けする取り決めになってるわけなんですけれども、そういうことじゃなくて、平井知事はじめ鳥取県の皆さんが、岡山県の色んなことでお助けいただいた、これは多分一生忘れることはできませんけれども、できる時にできるようにしておく。段取りをきちんと事前に考えておくというのがすごく大事ななと思っております。それによって、自分たちの能力をうまく生かして、お互いに助け合うことができる。リスクを減らすことができるということで、今回の取組を一つのきっかけにしてまた別の組み合わせの、少なくとも中国5県で、まだまだいろんな可能性があるかと思っております。あの成功例が随分参考になったなあというふうに、5年後10年後、言ってもらえるように、取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

### (合意事項)

### ○伊原木知事

意見交換は以上となります。つづいて、会議の結果を踏まえた合意事項について、私の方から読み上げをしたいと思います。

令和3年度、岡山・鳥取両県知事会議 合意事項

新型コロナウイルス感染症対策について、第5波までの教訓を生かし、第6波に備えて、さらなる情報共有を行います。

両県境におけるワーケーションの取り組みについて、今年度のワーケーションツアーの成果をもとに、両県内他地域での横展開を検討をします。

観光連携について、高速道路ネットワークを利用した周遊モデルコース等について、効果

的な情報発信を行い、両県への観光客誘致を進めます。

高速道路ネットワーク等の整備促進について、中国横断自動車道岡山米子線における早期の全線4車線化や、利用促進の取り組みについて引き続き連携を行います。

令和3年10月22日 岡山県知事 伊原木隆太 鳥取県知事 平井伸治 両名で作らせていただきました。どうぞよろしく申し上げます。

#### ○平井知事

ありがとうございました。本当に素晴らしい取りまとめをしていただきまして、是非新型コロナウイルスでこれを抑え、乗り越えていく、その口火を岡山鳥取両県で切ることができればと思います。本当にありがとうございます。

#### ○伊原木知事

これで予定しておりました議題は以上でございます。これだけのことについて同意できたというのが成果でありますけれども、私個人で言えば平井知事のコロナ対策普段教えていただいている以上のこと、ずいぶん教えていただいたのが個人的な一番の成果でございます。

我々もCT値について、帰ってどれぐらい調べてるか、担当に聞くことにいたします。どうもいろいろとありがとうございました。では司会を代えさせていただきます。

#### ○伊藤総合政策局長

ありがとうございました。以上をもちまして、岡山鳥取両県知事会議を閉会させていただきます。

それでは引き続きまして記者会見の方を行わさせていただきます。舞台変換を行いますので、少々お待ちいただければと思います。